

2022 年 10 月 28 日

主体的な避難訓練に向けて

中間考査最終日の今日 19 日、大規模地震の発生後、一部の私鉄主要路線の運行が再開されたと想定し、学校最寄り駅および直接帰宅する場合の徒歩下校訓練を実施しました。今年から発足した災害対策委員会が中心となって誘導し、12 時 45 分にスタートし、13 時 22 分までに全員が最寄り駅の改札を通過して自宅に向かいました。

当日の集会でも話をしましたが、これまでのような年間計画に組み込まれた予定調和的な計画された避難訓練から、災害時に主体的に行動できるような実質的訓練に向けて、今年の訓練が改革の第 1 歩となるようにしたいと考えています。最終的には 3 年以内に「抜き打ち」で避難訓練を実施できるよう、今後はいくつかの段階別に避難訓練を行う予定です。

さて、いくつかの自治体や学校で取り入れられるようになってきましたが、日本でも中高生が「援助される側」としてではなく地域や避難所での防災活動に主体的にかかわり、「支援する側」から行動するような訓練プログラムが開発されています。本校だけでも 700 余名の生徒と 40 名近くの教職員が避難行動する場合、すべてを教職員任せにできない状況も想定できます。災害時の学校および周辺では、教職員の手足となって行動できる人材が求められています。

その点では、今年の高校 1 年生から始まった新しい教科「探究学習」での多摩市との連携は大いに発想の参考になるのではないかと思います。「探究学習」では、これまで教科書にある問題を超えて、高校生が目線から現在の多摩市が抱える問題を多摩市役所や多摩市内にお住まいの皆さんと一緒に学ぶことで解決の糸口を見出そうという試みをしています。こうした学ぶ姿勢は、きっと「災害時に役立つ高校生」に繋がると考えています。

まだまだ経験不足で荒削りな面は拭えませんが、市民の方々のご協力を得ながら高校 1 年生が共に学ぶことで、一人ひとりが少しでも自信をもって行動できるようにと期待しているところです。

校長 石飛 一吉